

Anubis QuickStart

[必要なソフトのインストール](#)

- [1. Google Chrome](#)
- [2. ANEMAN](#)
- [3. RAVENNAドライバ](#)
 - [Windows用ドライバ](#)
 - [Mac用ドライバ](#)

[ドライバの設定](#)

[電源アダプタの接続と電源スイッチ](#)

[Anubis SPS の LANポート](#)

[Mission の選択](#)

[初回の起動直後の設定](#)

[ボタンの操作](#)

[入出力の呼び方と設定](#)

[Source](#)

[Monitor](#)

[設定例](#)

[Source の設定](#)

[Monitor の設定](#)

[Main 1-2 の設定](#)

[“Alt 3-4” の設定](#)

[“Phone 1” の設定](#)

[“Phone 2” の設定](#)

[録音ラインを設定する](#)

[Talkbackを設定する](#)

[マイク プリアンプの設定](#)

[ANEMAN](#)

[GUI - Windowの名称](#)

[World View での操作](#)

[Matrix View での操作 \(Anubis と DAW の接続\)](#)

[操作](#)

[応用編](#)

[リモート用スイッチ](#)

[GPO接点の使い方](#)



必要なソフトのインストール

※ MassCore PC を使用されているユーザーは、この章を飛ばしてお読み下さい。

AnubisをDAWと接続してPCからリモート コントロールするには、3種類のソフトウェアが必要です。作業環境に合ったものをダウンロードしてインストールしてください。

※注意: DAWが動作するPC/Macには、DPC Latency を解消したものを使用してください。

1. Google Chrome

Anubisのリモートコントロールや、ファームウェアの更新に使用します。他のブラウザでも動作する場合がありますが、Merging社では Google Chrome のみで検証しています。

できる限り、Google Chrome をデフォルトのブラウザとして使用してください。

2. ANEMAN

Merging社製のRAVENNA/AES67機器間の接続を行います。

<https://merging.com/support/downloads#aneman>

Merging社製でないRAVENNA/AES67機器間の接続を行うには、それぞれの機器のAdvanced Pageを使用して接続を行います。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

3. RAVENNA ドライバ

Windows用ドライバ

MAD

Windowsで標準に使用されているWDM、音声用アプリケーションでよく使用されるASIOと、AoIP RAVENNA/AES67の相互変換をする Windows10 64bit 用のドライバです。

※注意: **Intel i225-V** を搭載したアダプターを使用する場合、Stepping B3 / Revision 3 以降のものを使用してください。

※注意: **Intel i226-V** を搭載したアダプターには、通信をランダムに止める障害があります。使用しないでください。

Mac用ドライバ

Merging RAVENNA/AES67 Virtual Audio Device

Apple Macintoshの標準音声バスであるCore Audioと、AoIP RAVENNA/AES67の相互変換をするドライバです。[Mac OSのバージョンに合ったバージョン](#)をインストールしてください。

インストールが終わったら、LANケーブルでAnubisとPC/Macを接続してください。

※注意: Macの本体に装備されている 10Gb のイーサネットアダプターはサポートされていません。

※注意: M1 Silicon を使用しているMacは、USBのパフォーマンスが脆弱です。以下の Thunderbolt LAN アダプターのご使用を検討してください。

<https://www.sonnettech.com/product/thunderbolt-avb-adapter/overview.html>



ドライバの設定

※ MassCore PC を使用されているユーザーは、この章を飛ばしてお読み下さい。

ドライバを開いて以下の確認と設定を行ってください。詳細は各マニュアルを御覧ください。

1. Anubisと接続しているLANポートが **NETWORK INTERFACE** で選択されていることを確認してください。

OPERATING MODES
UNITE - RAV/AES67

STATUS SECTION →

DISCOVERY ZONE and device access →

NETWORK INTERFACE →

ADVANCED SETTINGS →

↑
VAD Version



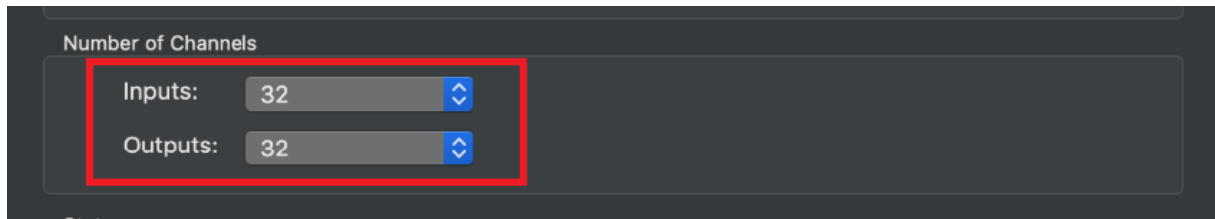
The screenshot shows the MADPanel software interface with several sections annotated by arrows:

- OPERATING MODES**: Points to a row of four icons labeled UNITE, RAV/AES67, NADAC, and MASSCORE.
- STATUS SECTION**: Points to a central area showing a computer and a device connected by a double-headed arrow. Below this, it displays: "MAD is united with Anubis_650101", "Status: Running", "Sample Rate [reaper]: 96kHz", and "Clock: Locked on 169.254.228.14".
- DISCOVERY ZONE and device access**: Points to a section titled "Network Discovery" containing two icons labeled "RICMACBOOKPRO-2" and "Anubis_650101".
- NETWORK INTERFACE SETTINGS**: Points to a section titled "Network Adapters" with dropdown menus for "Primary:" (Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #5 (169.254.186.2; ~), "Secondary:" (None), and "Latency:" (6/12/48 (AES67)).
- MAD Version**: Points to the text "Version: 2.0 build 7300" and "Click [here](#) to access MAD online documentation".
- ADVANCED SETTINGS**: Points to a button labeled "Advanced Settings >>".

At the bottom left of the interface is the logo for "MERGING AUDIO FOR THE NETWORKING AGE".



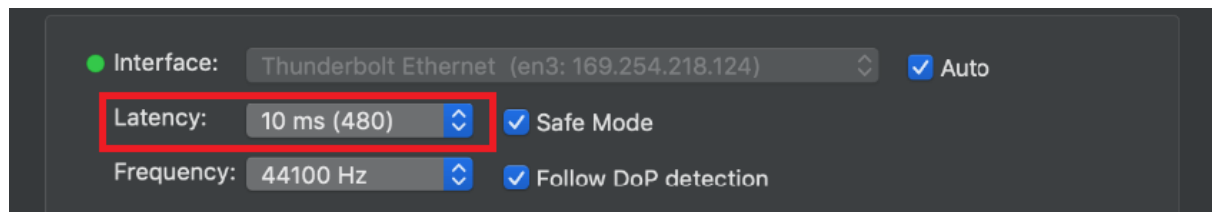
2. ADVANCED SETTINGS を開き、入出力数を使う分だけ、設定してください。



Channel Settings

		44.1/48k	88.2/96k	176.4/192k	352.8/384k
Inputs:	16	16	8	4	2
Outputs:	16	16	8	4	2
Bridges:	0	0	0	0	0
Ordering:	<input type="checkbox"/> List Bridge Channels Before I/O's				

3. Latencyを48(1ms)の倍数に設定してください。Anubisのデフォルトは 48 sample になっています。
AnubisのLatencyと合わせてください。



ASIO Settings

Master ASIO host:	(Default)
Sample rate:	48000
Buffer size:	192 [smpl] @ 44.1kHz/48kHz
ASIO hosts:	<input checked="" type="checkbox"/> Mix safe mode

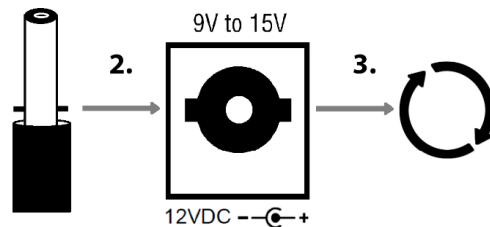
* ASIOの Buffer size は、192 [smpl] あたりに設定しておいてください。



電源アダプタの接続と電源スイッチ

電源プラグ

電源プラグには突起がついており、ただコネクタを挿すだけでなく、挿した後に時計方向に90度回してください。コネクタを抜くときは、まずコネクタを半時計方向に90度回して引き抜いてください。

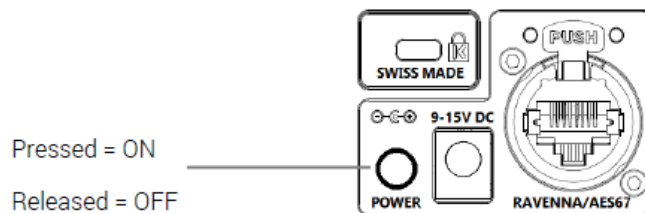


Anubis SPS を使用しているユーザーは、通常のADアダプター用コネクタとなっています。通常通りACアダプターを差し込んで下さい。

電源スイッチ

電源コネクタの隣には電源スイッチがあります。スイッチを押し込んでON、もう一度押してスイッチがリリースされた状態でOFFです。

ONにすると全てのスイッチが点灯し、ファームウェアの起動が始まります。数十秒後にファームウェアの起動が完了すると、LCDスクリーンに操作画面が表示されます。





Anubis SPS の LANポート



Anubis SPS には2つのLANポートが装備されています。これらは2つの用途に Setup > General で切り替えて使用できます。詳しくはここを参照してください。

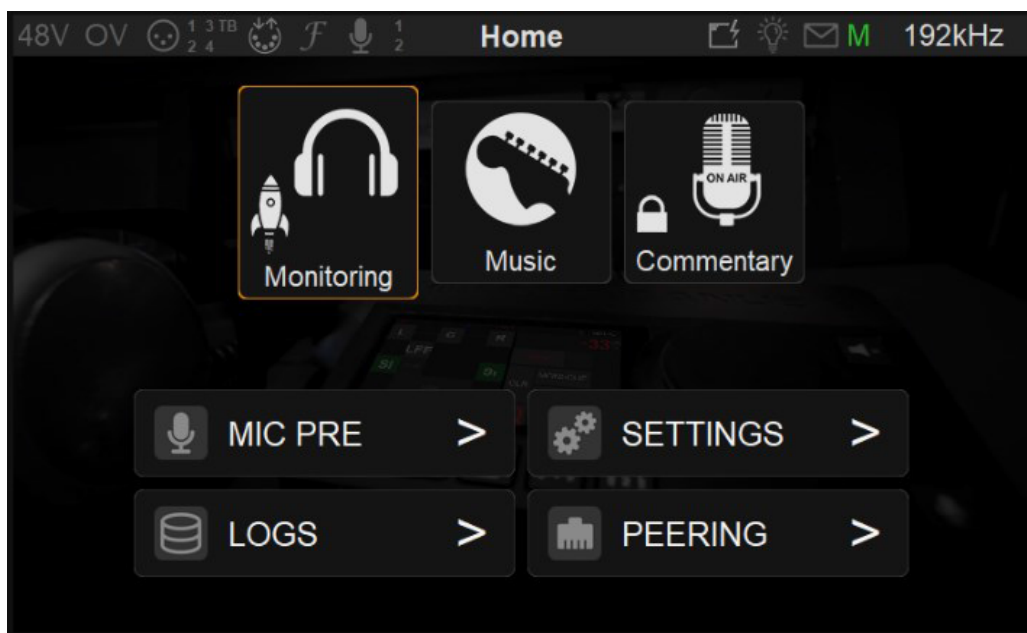
PoE を使用する場合は、上側の LAN ポートを使用してください。

LANの配線が終わったら、Anubis の電源を入れて下さい。

Mission の選択

Anubis Firmware 1.1.x から、初回の起動時に“Mission ホスティング”と呼ばれるアイコンが表示されます。これは将来リリースされる“Mission”を選択することで、Anubisを様々な用途に使用可能にすることを目的としています。

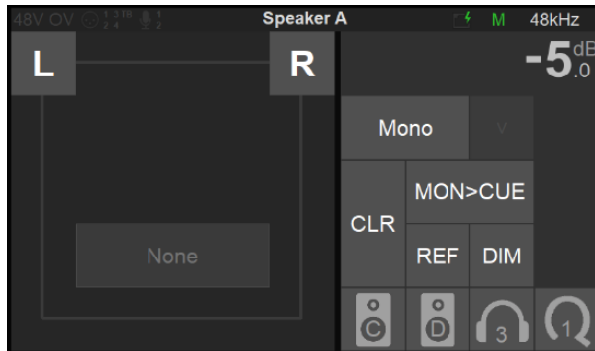
現在は“Monitoring Mission”と“Music Mission”が選択可能です。このマニュアルでは“**Monitoring**”のアイコンにタッチして起動を続けて下さい。





初回の起動直後の設定

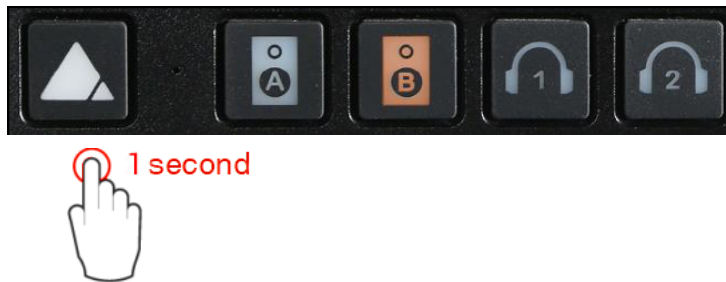
Anubisの起動が完了すると、“**Monitor Page**”と呼ばれる下図の画面が表示されます。



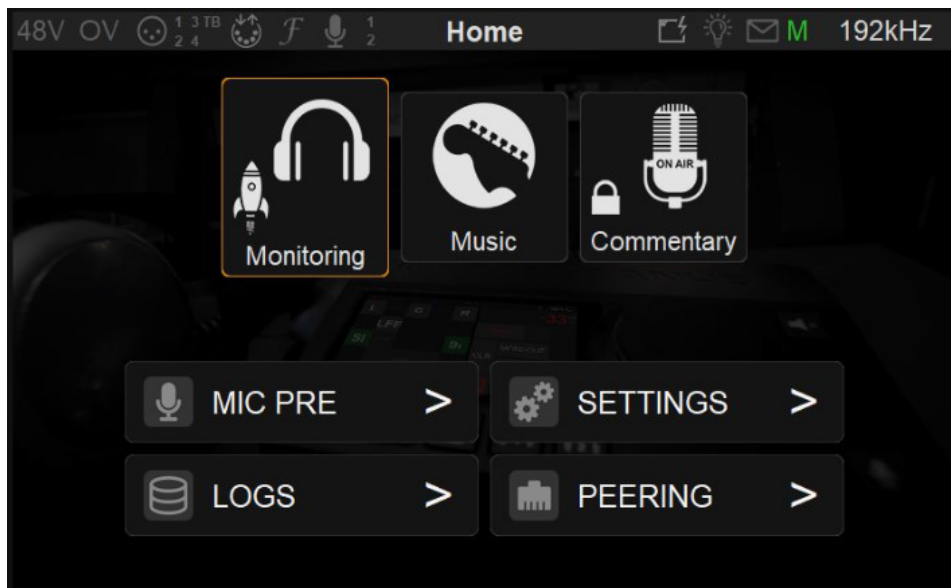
いろいろと触り始める前に、1) TFTスクリーンの輝度調整 と 2) ボタンの輝度調整、3) LANポートのモード設定 (Anubis SPS ユーザーのみ)を行って下さい。

Anubis の Home ボタン と Home ページ

Anubisの最も左側についている、ピラミッド アイコンのボタンを “Home ボタン” と呼びます。ホームボタンを1秒以上押し続けて下さい。



スクリーンは、下図の “Home” ページ と呼ばれるページに切り替わります。元の表示に戻るには Home ボタンを押すと戻れます。Missionを切り替えたい場合や設定を変更したい場合は、この “Home” ページで行います。





“Settings” にタッチすると、Settings ページが表示されます。

Settings		M 48kHz
General	>	
Meters	>	
Presets	>	
MONITORING	-	
Sources	>	
Monitors	>	



TFT画面を上下にスクロールさせると、Settingsのエントリーを確認できます。

MONITORING	-
Sources	>
Monitors	>
Monitor Levels	>
Talks	>
I/O	-
Audio Inputs	>
Audio Outputs	>
Triggers	>
Info	>
Debug	>
Exit	>

TFTスクリーンの輝度とボタンの輝度の変更



General Settings にタッチして入ります。

「TFTスクリーンの輝度調整」と「ボタンの輝度調整」は下にスクロールして、**INTERFACE CONTROLS** のセクションにあります。



Brightness Display にタッチして ロータリー エンコーダ を反時計回りに回し、TFTスクリーンを適当な輝度に調整してください。

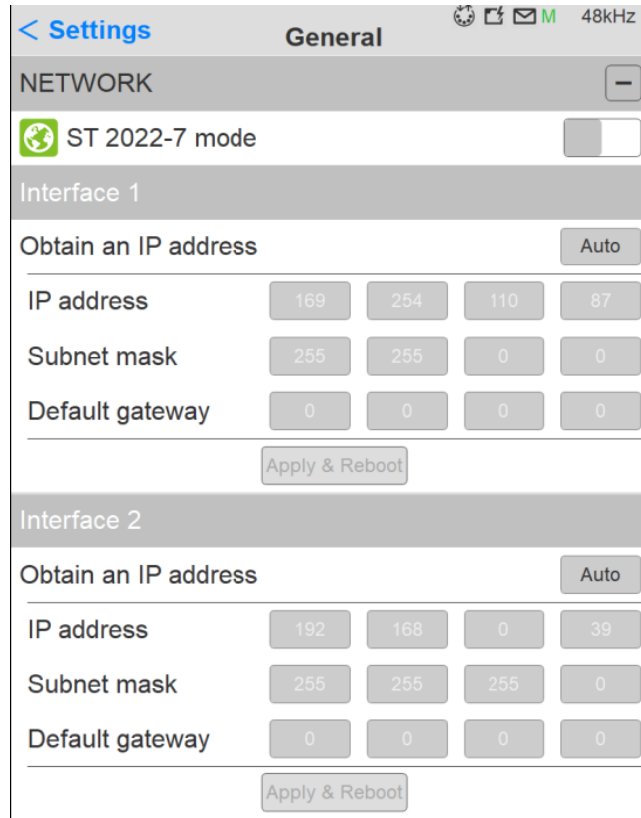




Button Intensity にタッチして ロータリー エンコーダ を反時計回りに回し、ボタンの輝度を適当な香料に調整してください。

ST 2022-7 mode の設定

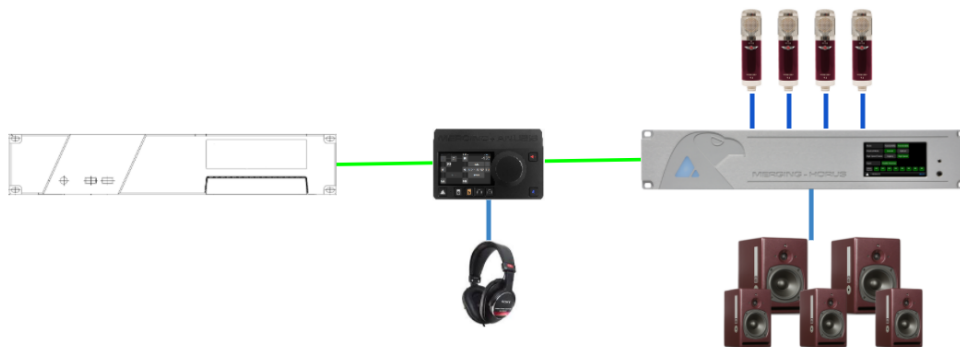
Anubis SPS ユーザーは、さらに下にある **NETWORK** を探して下さい。



Anubis SPS は、2つのLANポートを “**ST 2022-7 モード**” として使用できます。このモードでは、リダンダンシーのあるLANポートとして使用します。ST 2022-7 モードで使いたい場合は、“**ST 2022-7 mode**” を **Enable** に設定して下さい。セットアップの詳細については、次のリンクを参照してください。

<https://confluence.merqing.com/pages/viewpage.action?pageId=68747294>

”**ST 2022-7 mode**” が **Disable** の場合、2つのLANポートは “**スイッチ モード**” になります。スイッチモードでは、その名前の通り、もう一台の RAVENNA 機器を接続することができます。つまり、ネットワーク ハブとして Anubisを使用できます。通常は ”**ST 2022-7 mode**” を **Disable** にしてスイッチモードに設定してください。



※ 設定が終わったら、**Home**ボタンを短く押して **Monitor** ページに戻して下さい。



ボタンの操作

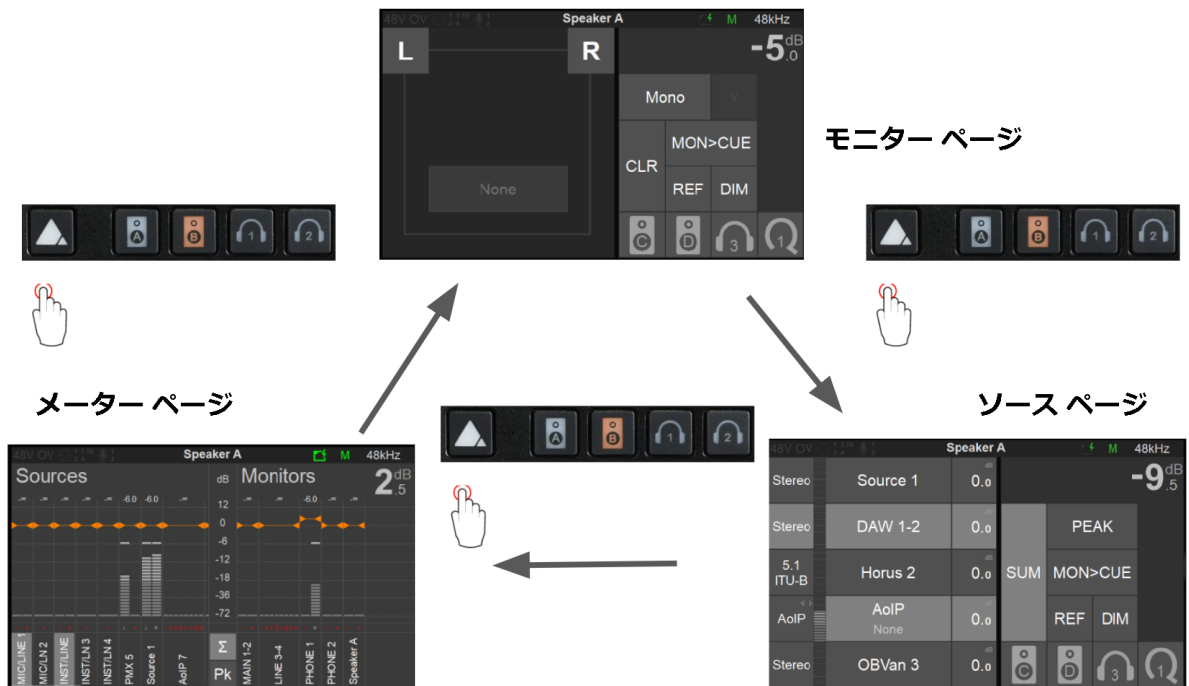
Home ボタン



Home ボタンはAnubisの前面LCD左下にある Merging 社のロゴがしたボタンです。

Home ボタンと画面のサイクル

- Home ボタンを短く押すと、LCDスクリーン上の表示が切り替わります。
- スクリーン表示には3ページあり、Home ボタンを短く押すと表示をサイクルします。

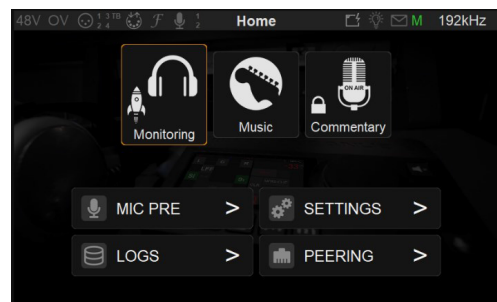




ページ名	GUI	役目
モニター ページ		モニタースピーカーのコントロール (Cut, Solo, Dim, Ref など)を行います。
ソース ページ		モニターするソースを選びます。
メーター ページ		Source と Monitor のレベル監視ができます。 また、それらの個々のレベル調整が行えます。

Home ボタンの長押し

どのページからでも、Home ボタンを1秒以上長く押しと、LCDスクリーンの表示が上記の3つの表示モード以外のページが表示されます。



- **Settings** ページでは、各種の詳細な設定を行います。
- **Mic Pre** ページでは、マイク / ライン アンプの設定が行なえます。
- **Logs** ページでは、Anubisが報告するエラーログを確認できます。

スクリーンをタッチすると、その中のメニューに入ることができます。

* このページから離れるには、Home ボタンを再度短く押してください。



※ 注意 ※

このセクション以降は、前セクションで上げた3つのソフトウェア (MAD または VAD, ANEMAN, Chrome) をインストールし、動作確認が終わっているという設定で説明を行います。

まだソフトウェアをインストールされていない方は、インストール後にお読みください。

入出力の呼び方と設定

Anubis + Monitor では、入力を **Source** と呼び、出力を **Monitor** と呼びます。

Source

- **Source**とはAnubisの入力の事です。
- Anubis が装備している XLR や TRS ジャックの他、RAVENNAネットワーク上のデバイスの物理入力も利用することができます。
- Anubisでは「何チャンネル入力したいか？」のチャンネル数を **Type** で決めます。
- **Source**は 最大で合計128ch (@1Fs)まで設定できます。
- 新しい **Source** を作成すると、ANEMAN上の Anubis入力にそのポートが追加されます。

Monitor

- **Monitor**とはAnubisの出力の事です。
- Anubis が装備している XLR や TRS ジャックの他、RAVENNAネットワーク上のデバイスの物理出力も利用することができます。
- 出力にもチャンネル数を表す **Type** があります。
- **Monitor** には、3つの **Mode** (**Speaker, Headphone, Cue**) があります。
- Anubisの 最大出力は32ch (@1Fs)です。
- 設定で最大出力数を越えようすると警告が表示されます。
- 新しい **Monitor** を作成すると、ANEMAN上の Anubis 出力にそのポートが追加されます。

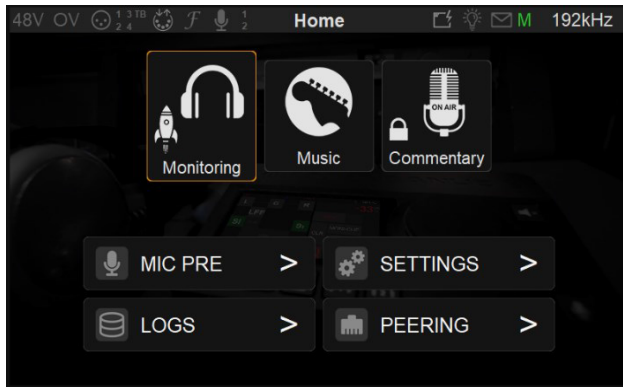


設定例

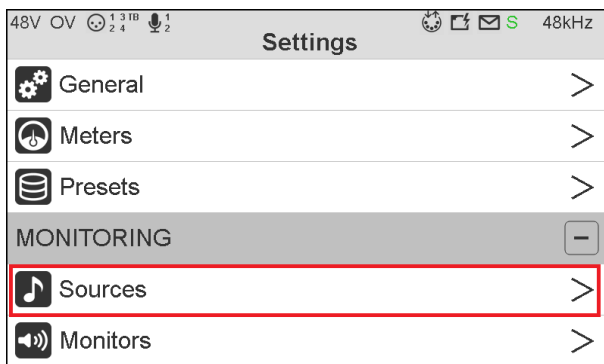
ボーカル ダビングを行う想定で、DAWからのステレオ プレイバックとマイク入力を作成してみましょう。

Source の設定

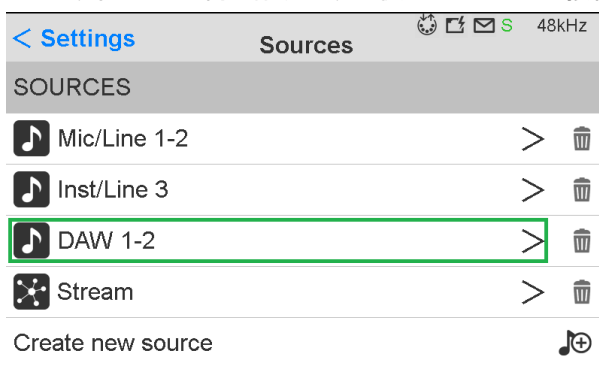
1. ホームボタンを長押しして”Settings” にタッチします。



2. “Sources” にタッチします。



3. デフォルトでは “DAW 1-2” という項目があります。これをDAWからのプレイバック用に使用することになります。ここでは何も作成せずに後でANEMANで接続をすることになります。

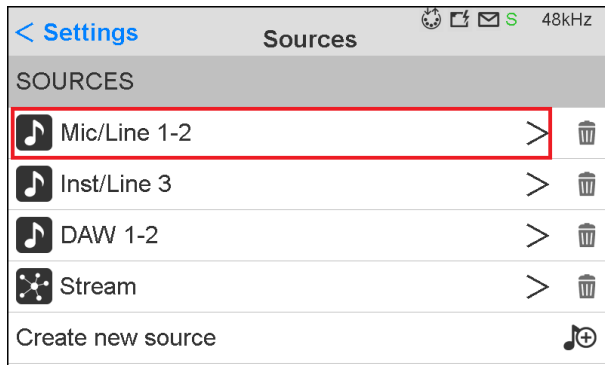




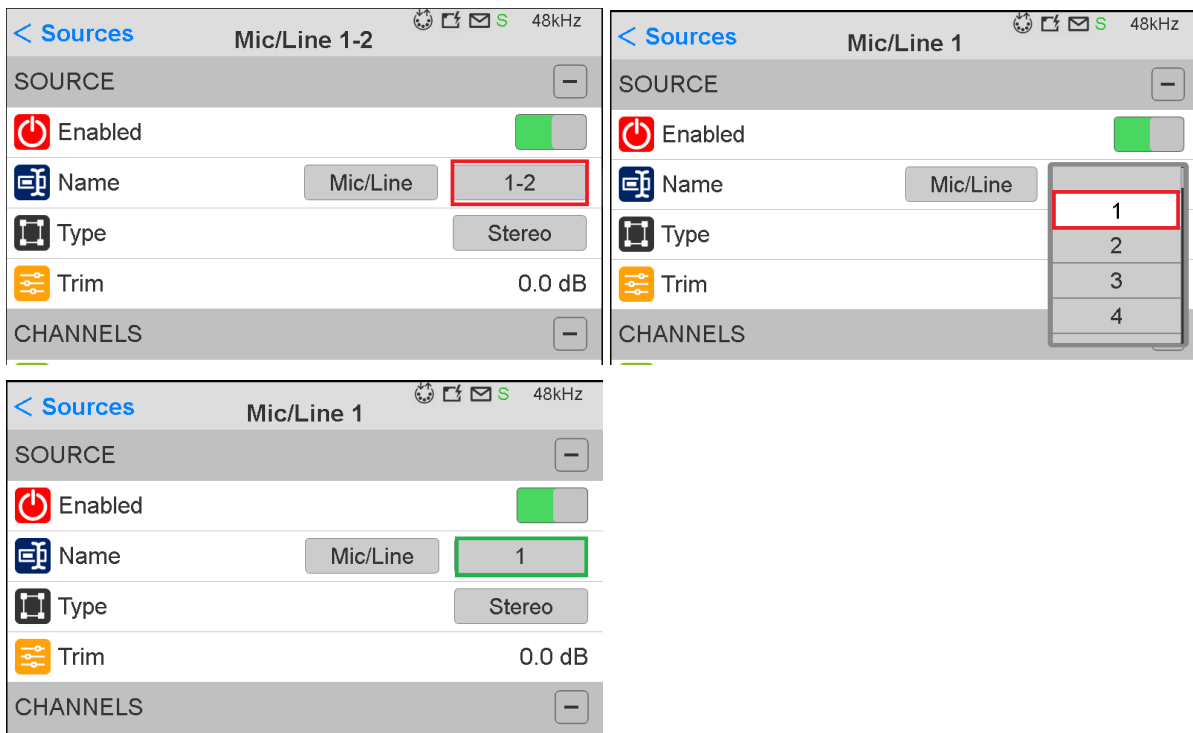
次にマイク入力ですが、Anubisのマイク入力(Combo 1/2_1)端子を使用することになります。

Anubisの Combo 1/2_1 端子は、デフォルトで Source の “Mic/Line 1-2” で使用されていますので、“Mic/Line 1-2” を変更して使用することになります。

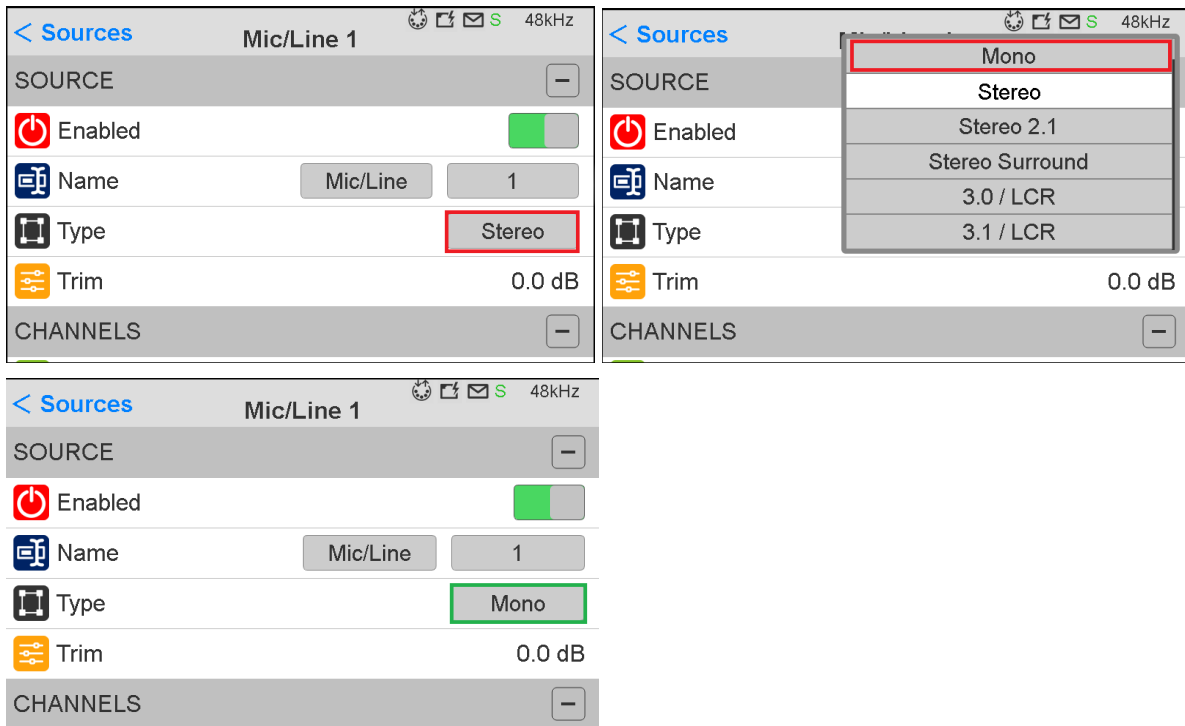
4. “Mic/Line 1-2” にタッチします。



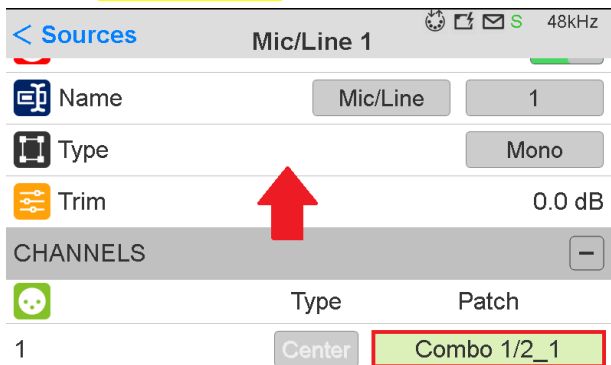
5. 紛らわしいので、“Name”に入っている “[Mic/Line] [1-2]” の [1-2] にタッチし、スクロールさせて [1] にします。



6. “Type”で設定されている [Stereo] にタッチしてスクロールし、[Mono] に変更します。



7. 画面にタッチして少しスクロールさせ、”CHANNELS” を表示させ、”Patch” の下のボックスを **[Combo 1/2_1]** に設定します。



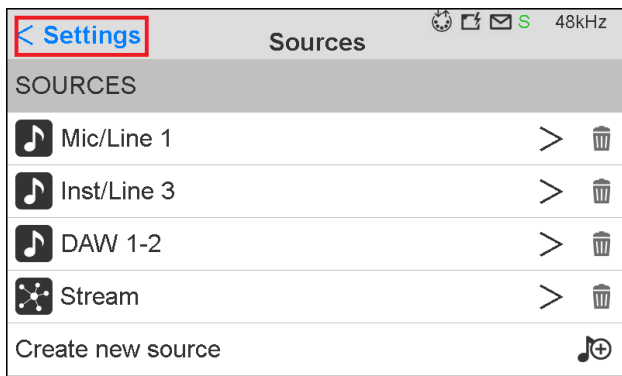


Monitor の設定

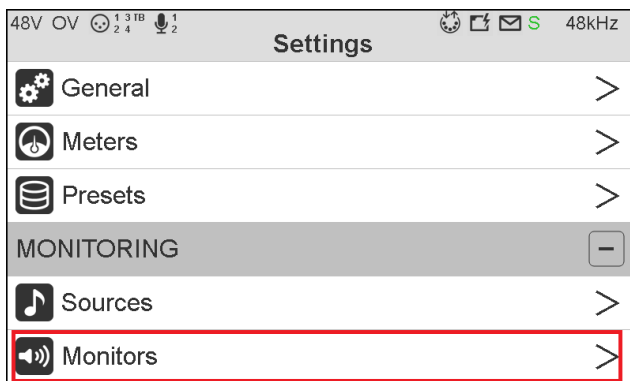
次にMonitor側の設定を行います。条件は以下の通りです。

- 作業をボーカリスト(アナウンサー)とミキサー(エンジニア)の2人で行うと仮定します。
- モニター スピーカーが2セット(Main/Alt)があると仮定します。これは切り替えて使用します。
- ヘッドフォン端子1をミキサー(エンジニア)が使用します。
- ヘッドフォン端子2をボーカリスト(アナウンサー)が使用します。
- トークバックが行えるように設定します。
- トークバック時、スピーカーがDimするように設定します。

8. LCDの左上の **"Settings"** 部分にタッチし、Settingsの最上階層に戻ります。



9. **"Monitors"** にタッチして Monitor 階層に入ります。





10. Main 1-2 の設定

10.1. “Main 1-2” にタッチし、Main 1-2 の設定を行います。

- ここで Main 1-2 はAnubis背面の **XLR端子** から出力することになります。
- また、Talkback が押されたときにDimするように設定します。

10.2. ほとんどデフォルト通りで変更箇所がありません。唯一、Talkback 部分のみ設定変更があります。

これは、

- Talkボタンを押したときに、スピーカーからの音が -20dB Dimするようにする
- Talkボタンを押したときに、スピーカーからTBマイクの音が出ないようにする(フィードバック防止) ためです。

次の表では、変更する部分のみハイライトしています。

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	Main 1-2	Main 1-2
Mode	SpeakerSet	SpeakerSet
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	Speaker A	Speaker A
Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	XLR 1/2 _1	XLR 1/2 _1
Right	XLR 1/2 _2	XLR 1/2 _2
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	-20 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talker Dim	0 dB	-60 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talk A	None	Talk 1
Talk B	None	None

10.3. 左上の “Monitors” にタッチし、上の階層に戻ります。



11. “Alt 3-4” の設定

11.1. 同様に“Alt 3-4”の設定を行います。Alt 3-4 の出力端子は、Anubis背面のステレオ ジャックにします。

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	<input type="text" value="Alt"/> <input type="text" value="3-4"/>	<input type="text" value="Alt"/> <input type="text" value="3-4"/>
Mode	SpeakerSet	SpeakerSet
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	Speaker B	Speaker B
Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	Jack 3/4 _3	Jack 3/4 _3
Right	Jack 3/4 _4	Jack 3/4 _4
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	-20 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talker Dim	0 dB	-60 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talk A	None	Talk 1
Talk B	None	None



12. “Phone 1” の設定

- 12.1. 同様の手順で“Phone 1” の設定に入ります。
- 12.2. Anubis 前面の“Phone A” 端子を使用します。
- 12.3. “Phone 1” はミキサー(エンジニア)用のヘッドフォンですので、
 - TBを押した際にソースレベルにDimをかけます。
 - TBの自分の声を聞くため、Talker Dim はかけないことにします。

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	Phone 1	Phone 1
Mode	Headphone	Headphone
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	Headphone 1	Headphone 1
Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	Headphone 1_Left	Headphone 1_Left
Right	Headphone 1_Right	Headphone 1_Right
CROSSFEED		
Crossfeed	0 dB	0 dB
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	-20 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talker Dim	0 dB	0 dB
Talk A	None	Talk 1
Talk B	None	None



13. “Phone 2” の設定

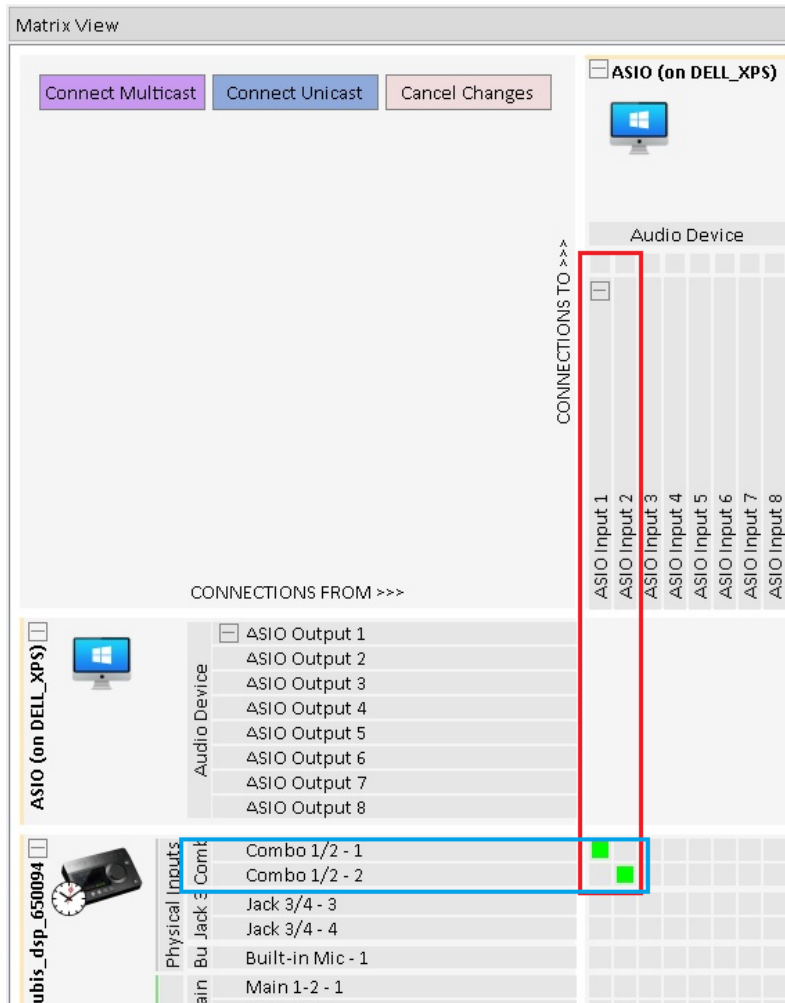
- 13.1. Phone 2 はボーカリスト(アナウンサー)用ヘッドフォンとします。
- 13.2. Anubis 前面の “Phone B” 端子を使用します。
- 13.3. **Mode**を “Cue” に変更します。これでモニターSource選択で選択したものではない “Source” を聴くことができます。
- 13.4. **“Mon->Cue Inactive”**(Mon->Cueを動作させない)は、Mon->Cue 機能を使用するので、Disable にします。
- 13.5. DAWからのプレイバックが極端なステレオパンニングをしていて聞きにくい場合は、”**Crossfeed**” の値を上げるとモノラルに近づけることができます(100%でMono)

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	Phone 1	Phone 1
Mode	Headphone	Cue
Mon->Cue Inactive	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	Headphone 2	Headphone 2
Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	Headphone 2_Left	Headphone 2_Left
Right	Headphone 2_Right	Headphone 2_Right
CROSSFEED		
Crossfeed	0 %	任意 %
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	-20 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talker Dim	0 dB	0 dB
Talk A	None	Talk 1
Talk B	None	None



14. 録音ラインを設定する

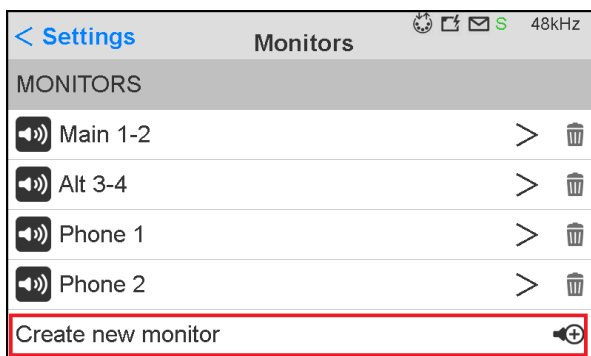
Source の設定で「録音するマイク入力」の設定を行いました。ANEMANでMicをDAWの入力に接続してやるとマイクアンプの出力をそのまま録音することができます。



録音レベルの調整フェーダーを作りたい場合、Monitor でマイクからのSourceをDAWに送るラインを増設しなければなりません。

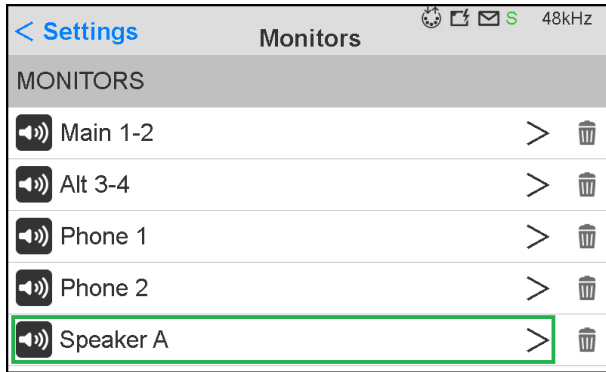
14.1. 一度、Monitor の階層まで戻ります。

14.2. “Create new monitor” にタッチして新しい Monitor を作成します。





14.3. デフォルトの名前 "Speaker A" がついたラインが作成されました。



14.4. "Speaker A"にタッチして中に入り、以下に注意して設定します。

- 14.4.1. わかり易い名前に変更します(この例では[Send]に設定しました)。
- 14.4.2. この出力は Monitor で選択したものではなく録音用の回線ですので、"Mode" は "Cue" でなければなりません。
- 14.4.3. "Mon->Cue Inactive"で、Mon->Cue 機能が働かないようにします。
- 14.4.4. マイク回線はモノラル回線ですので、"Type" は "Mono" にします。
- 14.4.5. "CHANNELS" はRAVENNA上に出力することになるため、Anubis本体では設定できません。ANEMANで設定しますので、とりあえず "None" のままにしておきます。



項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	Speaker A	Send
Mode	Headphone	Cue
Mon->Cue Inactive	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	VKey 1	VKey 1
Type	Stereo	Mono
CHANNELS		
1	None	None
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	0 dB
Talker Dim	0 dB	0 dB
Talk A	None	None
Talk B	None	None

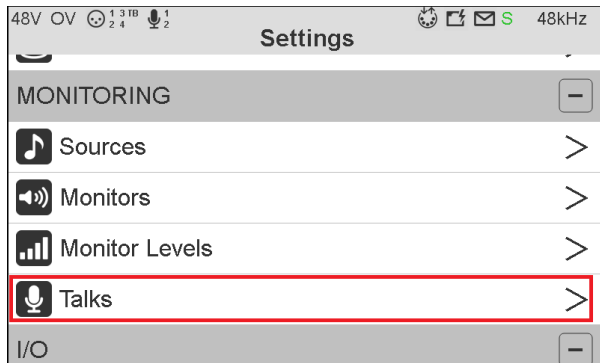
ここまで設定したら、左上のラベルを2回タップして“Settings”の最上層まで戻ってください。



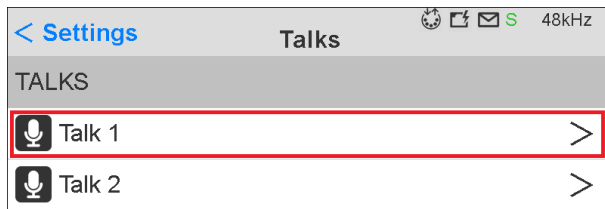
15. Talkbackを設定する

Talkback を設定します。

15.1. "MONITORING" にある "Talks" にタッチしてください。



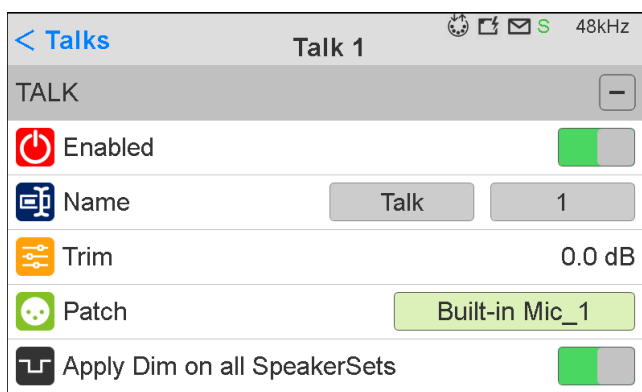
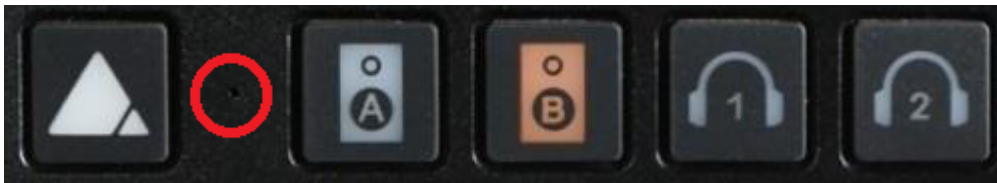
15.2. Talk 1 にタッチします。



15.3. 設定はほとんど変更ありません。

15.3.1. Apply Dim on all SpeakerSets をEnableにする程度です。

15.3.2. マイクはAnubisの内蔵マイクを使用します。マイクはホームボタンの右隣にある穴の中に装備されています。





16. マイクプリアンプの設定

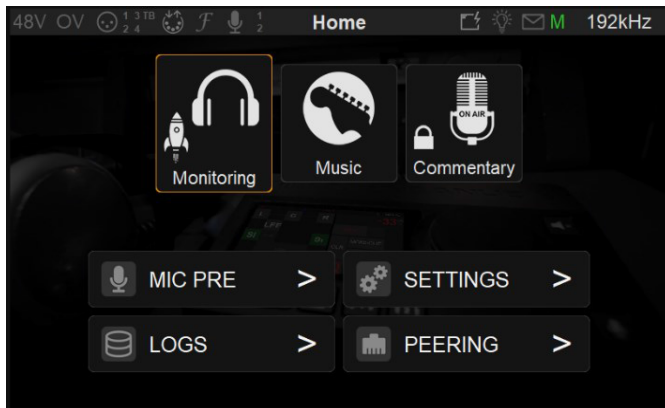
マイクプリアンプはGUIでも設定することができます。

16.1. 本体で調整する方法

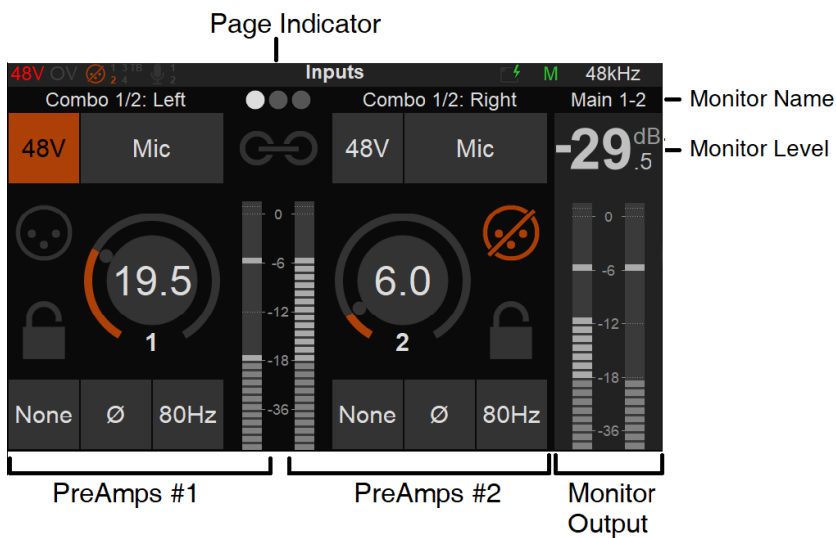
16.1.1. ホーム ボタンを短く1回押し、ホーム画面に出ます(”Settings”を抜けます)。


16.1.2. ホームボタンを1秒間押します。

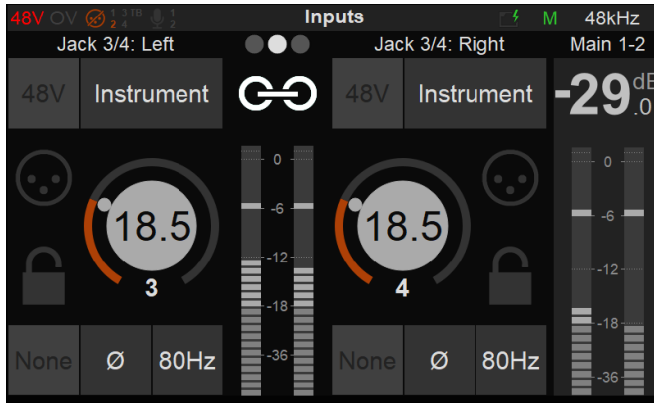
16.1.3. Mic Pre をタッチします。




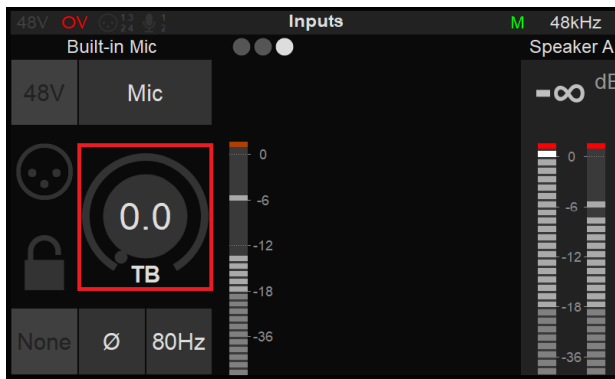
16.1.4. ここには通常、3ページがあります。最初のページは”Combo 1/2”のマイクアンプのページです。



16.1.5. ページを右から左へスワイプ  すると、”Jack 3/4”のライトリムが表示されます。



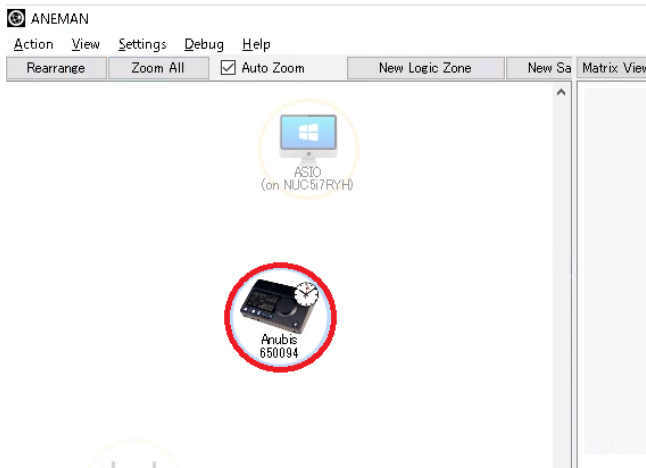
- 16.1.6. もう一度スワイプ  すると、内蔵マイクのマイクアンプが表示されます。
”TB” と書かれたトリム部分にタッチしてダイヤルを回すと、ゲインの調整ができます。



16.2. GUIで調整する方法

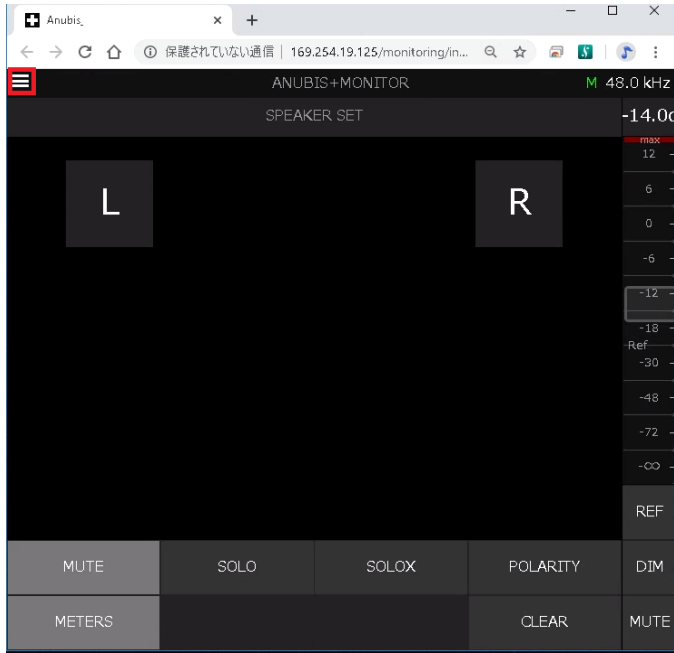
16.3. ANEMAN を起動します。

16.4. ANEMAN の左欄(World View)で、Anubis を見つけ、ダブルクリックします。

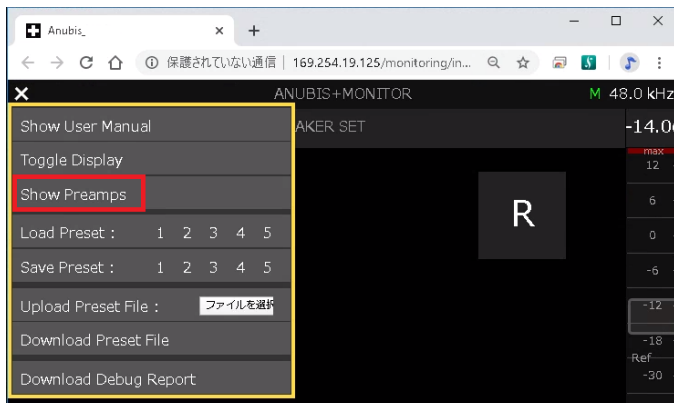


16.5. Google Chrome が起動し、AnubisのGUIが表示されます。

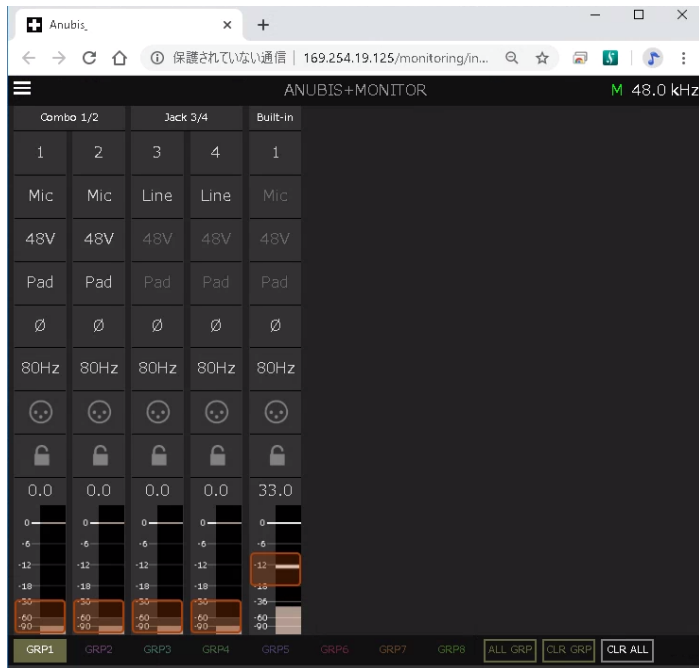
16.6. 左上にある“三”マークをクリックします。



16.7. 表示されたメニューの中の“”をクリックします。



16.8. マイクプリアンプのGUIが表示されます。ゲインはマウスでドラッグするか、ゲイン値の数字部分をダブルクリックし、キーボードで入力することもできます。



- 16.9. 再度、モニターGUIを表示させるには、“三” マークをクリックし、メニューから “Hide Preamps” をクリックします。



17. ANEMAN

ANEMAN は、RAVENNA / AES67 機器の相互接続を行うアプリケーションです。
このマニュアルでは、基本的な操作のみを説明しています。
詳細な使用方法は、マニュアルを御覧ください。

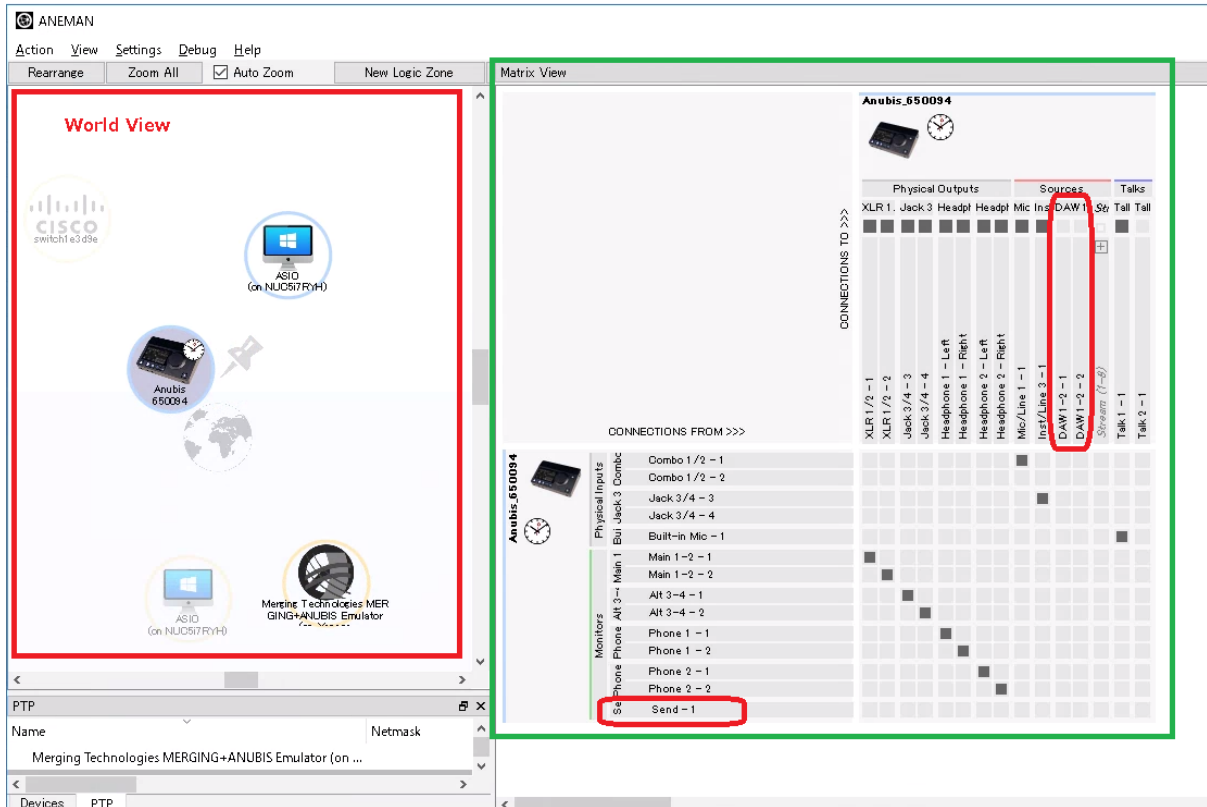
17.1. GUI - Windowの名称

ANEMANを起動すると、大きく分けて2つのGUIが表示されます。

左側の“World View”にRAVENNA/AES67ネットワーク上の機器が表示されます。

その中の機器をマウスでクリックして選択すると、その機器のI/Oを右欄の”Matrix View”で見ることができます。

マウスで複数の機器をドラッグして選択してI/Oを表示させ、その交点をマウスのクリックし、“Matrix View”左上に表示される“Connect”をクリックすると接続するとコネクションが行われます。



”World View”で、時計のアイコンがついている機器は、この機器がネットワークのPTPマスターであることを示しています。





Matrix View の中は、縦ラインが機器の出力(Monitor)、横ラインが機器の入力(Source)となっています。

上図は、先程設定したAnubisですが、“Matrix View”を見ると、Source “DAW” が、Monitorに前章で作成した“Send” が見えている事が分かります。

Anubis_650094

		Physical Outputs			Sources			Talks		
		XLR 1	Jack 3	Headpt	Mic	Inst	DAW 1	Se	Talk 1	Talk 2
CONNECTIONS TO >>>	XLR 1/2 - 1									
	XLR 1/2 - 2									
	Jack 3/4 - 3									
	Jack 3/4 - 4									
	Headphone 1 - Left									
	Headphone 1 - Right									
	Headphone 2 - Left									
	Headphone 2 - Right									
	Mic/Line 1 - 1									
	Inst/Line 3 - 1									
	DAW 1-2-1									
	DAW 1-2-2									
	Stream (1-8)									
	Talk 1 - 1									
Talk 2 - 1										

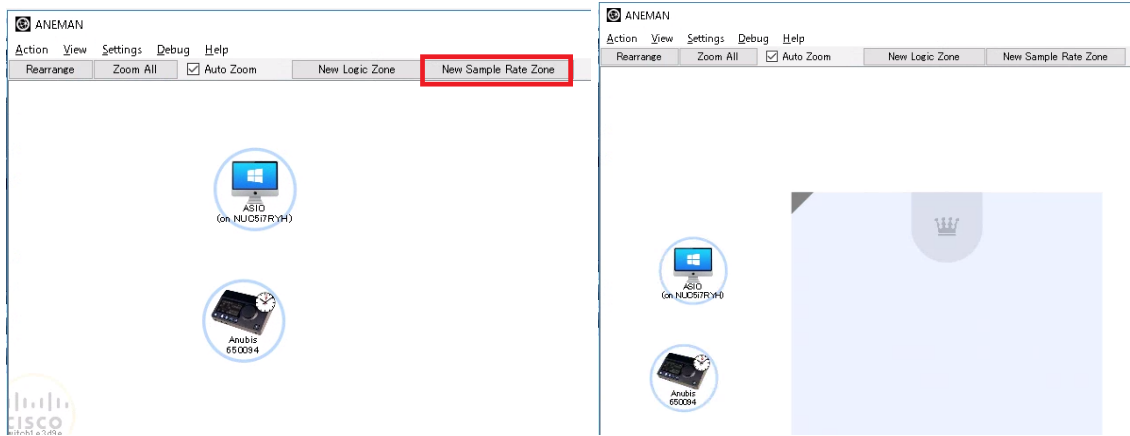
CONNECTIONS FROM >>>

		Combo 1/2 - 1	Combo 1/2 - 2	Jack 3/4 - 3	Jack 3/4 - 4	Built-in Mic - 1	Main 1-2 - 1	Main 1-2 - 2	Alt 3-4 - 1	Alt 3-4 - 2	Phone 1 - 1	Phone 1 - 2	Phone 2 - 1	Phone 2 - 2	Send - 1
Anubis_650094	Physical Inputs														
	Bui Jack.3														
	Monitors														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														
	Phone Alt 3-4														

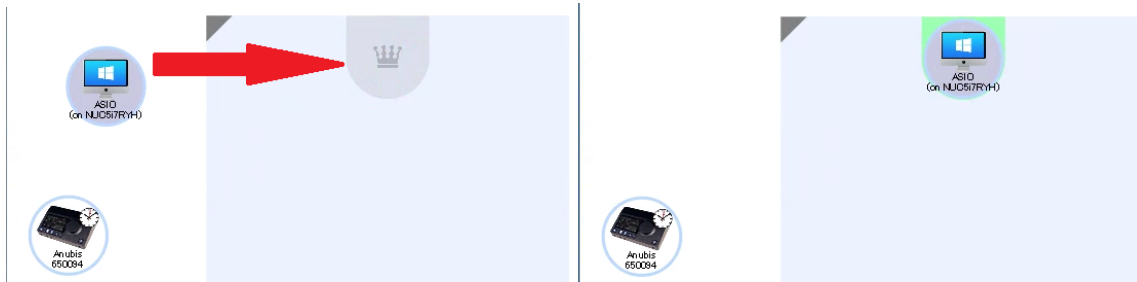


17.2. World View での操作

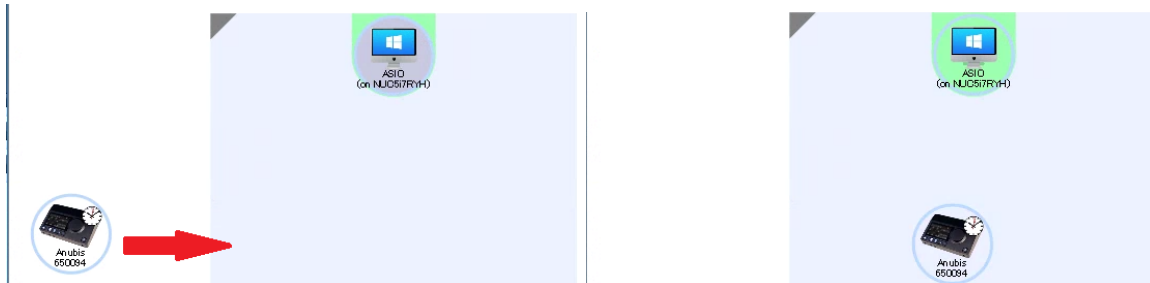
17.2.1. “World View” 右上にある [New Sample Rate Zone] をクリックして、新しい Zone を作成してください。



17.2.2. Zone 中の Crown (クラウン) に、DAW をドラッグして入れます。



17.2.3. Zone 中に Anubis をドラッグして入れます。

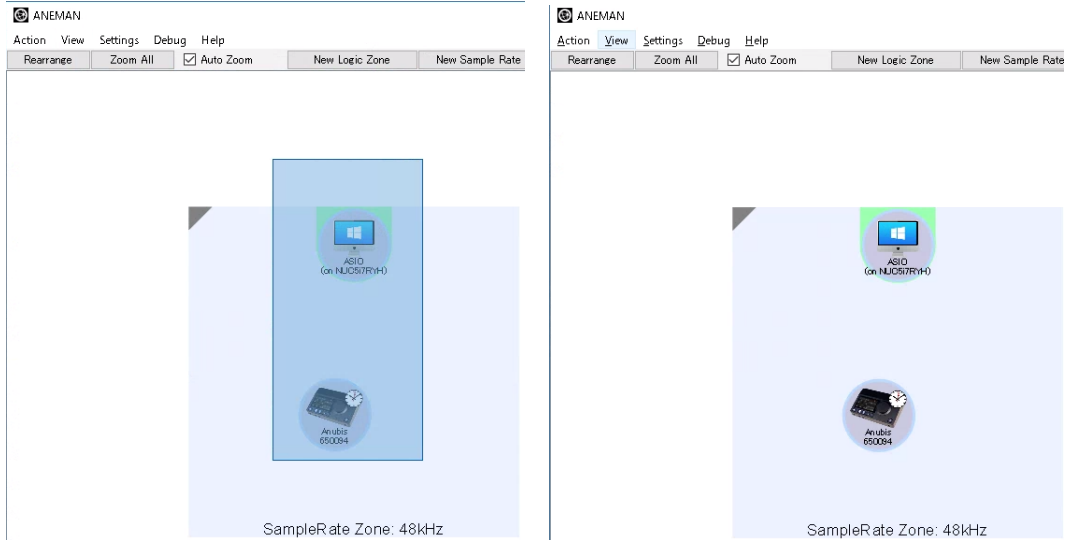


これにより、Anubis のサンプリング周波数設定は、DAW のサンプリング周波数設定に合わせて自動的に変更されます。



17.3. Matrix View での操作 (Anubis と DAW の接続)

17.3.1. "World View" 中の Anubis と DAW をマウスでドラッグして選択します。



17.3.2. すると "Matrix View" には、それぞれの機器の入出力が表示されます。

Matrix View

		ASIO (on NI)	Anubis_650094
		Audio Device	Physical Outputs Sources Talks
		<input type="checkbox"/> Audio Device (1-8) <input type="checkbox"/> Audio Device (9-16) <input type="checkbox"/> Audio Device (17-24) <input type="checkbox"/> Audio Device (25-32)	XLR 1 / 2 - 1 XLR 1 / 2 - 2 Jack 3 / 4 - 3 Jack 3 / 4 - 4 Headphone 1 - Left Headphone 1 - Right Headphone 2 - Left Headphone 2 - Right Mic / Line 1 - 1 Inst / Line 3 - 1 DAW 1 - 2 - 1 DAW 1 - 2 - 2 Stream (1-8) Talk 1 - 1 Talk 2 - 1
CONNECTIONS TO >>>			
CONNECTIONS FROM >>>			
ASIO (on NI)	<input type="checkbox"/> Audio Device (1-8) <input type="checkbox"/> Audio Device (9-16) <input type="checkbox"/> Audio Device (17-24) <input type="checkbox"/> Audio Device (25-32)		
Anubis_650094	Physical Inputs Combo 1 / 2 - 1 Combo 1 / 2 - 2 Jack 3 / 4 - 3 Jack 3 / 4 - 4 Built-in Mic - 1 Monitors Main 1 - 2 - 1 Main 1 - 2 - 2 Alt 3 - 4 - 1 Alt 3 - 4 - 2 Phone 1 - 1 Phone 1 - 2 Phone 2 - 1 Phone 2 - 2 Send - 1		



17.3.3. 例えば、DAWのプレイバックが、ASIO Output 1,2 に接続されているとします。それを Anubis の "DAW" に接続します。

17.3.3.1. CONNECTIONS FROM >>> にある "Audio Device (1-8)" の左にある "+"マークをクリックし、"ASIO Output 1 ~ 8" を表示させます。

Matrix View

ASIO (on NL) Anubis_650094

Physical Outputs Sources Talks

Audio Device	XLR 1	Jack 3	Headpt	Headpt	Mic	Ins	DAW 1	DAW 2	Stream	Talk 1	Talk 2
Audio Device (1-8)											
Audio Device (9-16)											
Audio Device (17-24)											
Audio Device (25-32)											

CONNECTIONS TO >>>

CONNECTIONS FROM >>>

ASIO (on NUC517RYH)

- ASIO Output 1
- ASIO Output 2
- ASIO Output 3
- ASIO Output 4
- ASIO Output 5
- ASIO Output 6
- ASIO Output 7
- ASIO Output 8
- Audio Device (9-16)
- Audio Device (17-24)
- Audio Device (25-32)

17.3.3.2. "Sources" にある "DAW1" との交点のグリッドをクリックします。グリッドが明るい緑に変わります。

Matrix View

Apply Multicast Apply Unicast Cancel Changes

INPUT ASIO (on NUC517RYH)
Audio Device ASIO Output 2
48000 Hz

OUTPUT Anubis_650094
DAW 1-2 2
48000 Hz

Physical Outputs Sources Talks

Audio Device	XLR 1	Jack 3	Headpt	Headpt	Mic	Ins	DAW 1	DAW 2	Stream	Talk 1	Talk 2
Audio Device (1-8)											
Audio Device (9-16)											
Audio Device (17-24)											
Audio Device (25-32)											

CONNECTIONS TO >>>

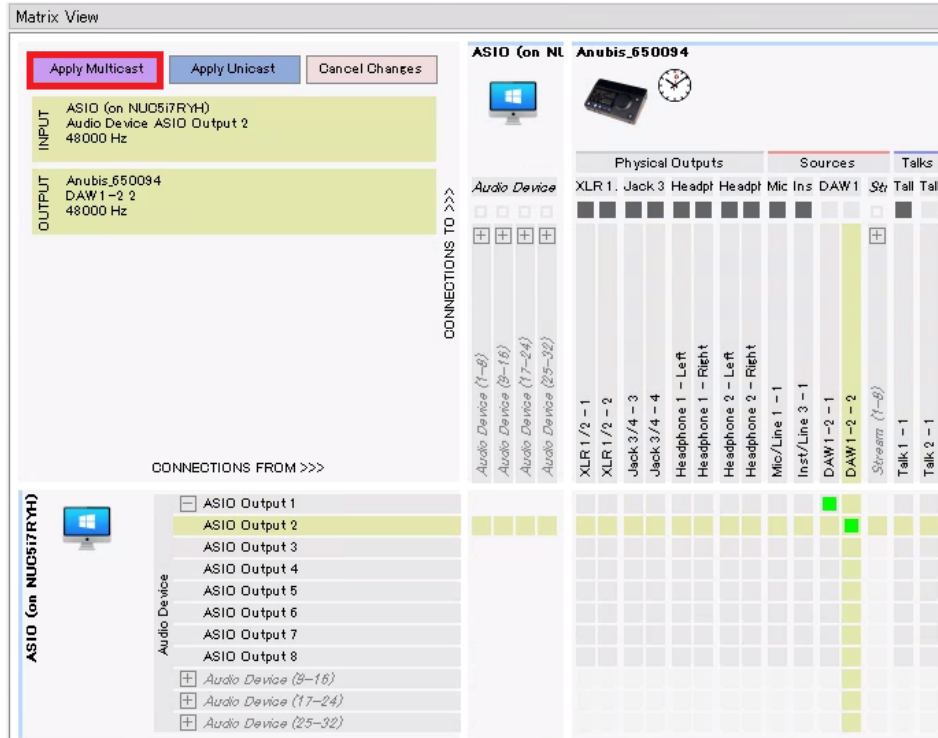
CONNECTIONS FROM >>>

ASIO (on NUC517RYH)

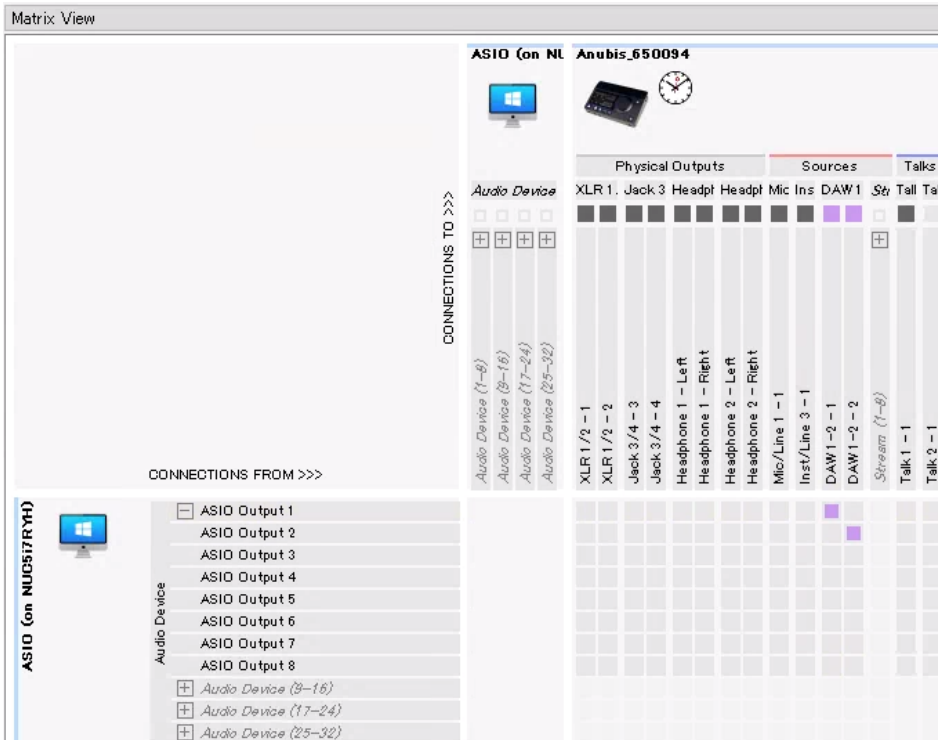
- ASIO Output 1
- ASIO Output 2
- ASIO Output 3
- ASIO Output 4
- ASIO Output 5
- ASIO Output 6
- ASIO Output 7
- ASIO Output 8
- Audio Device (9-16)
- Audio Device (17-24)
- Audio Device (25-32)



17.3.3.3. グリッドを選ぶと左上に表示される3つのボタンの中にある [Apply Multicast] をクリックします。



17.3.3.4. グリッドがオレンジに変化し、数秒後にパープルに変化します。これでコネクションが完了しました。

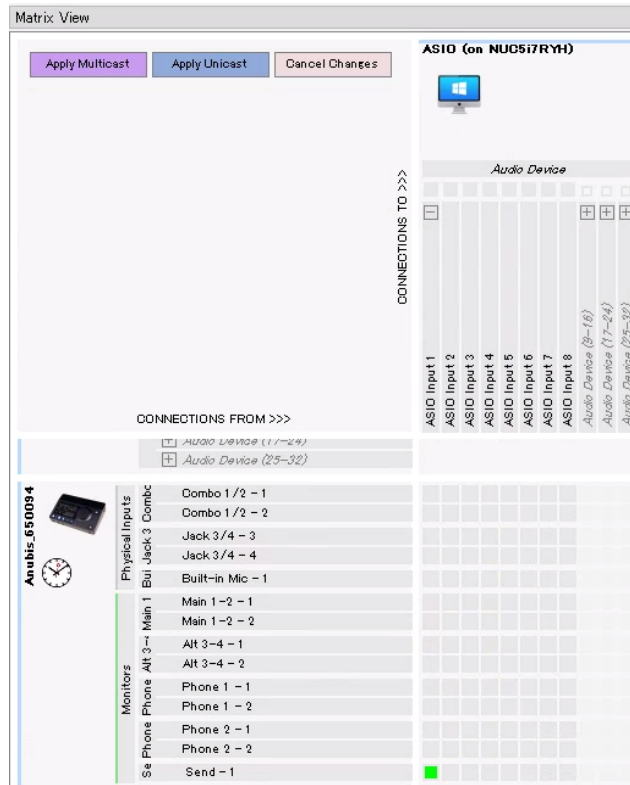


17.3.4. 次にマイクの録音用ラインであるAnubisの“Send”をDAWの“ASIO Input 1”に送ります。

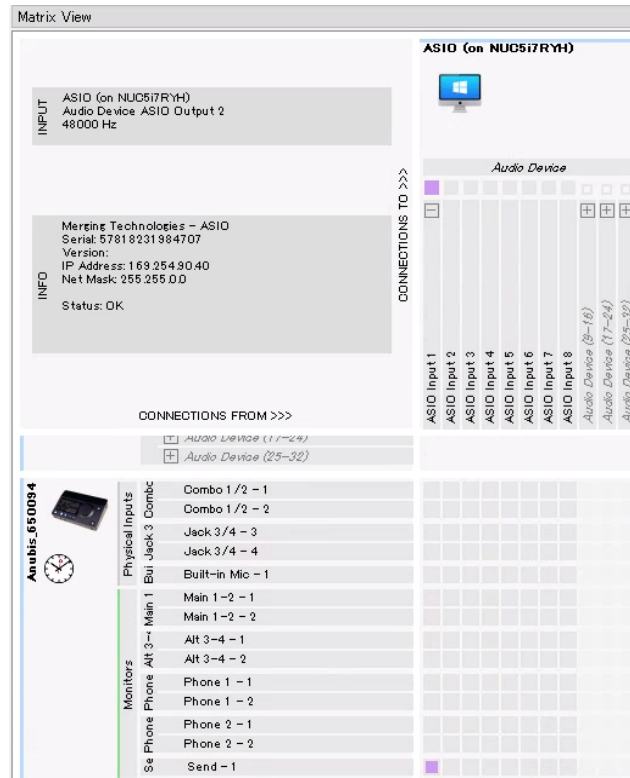




17.3.4.1. 同様に“ASIO Input 1 ~ 8”を表示させ、“Send”との交点のグリッドを選択します。



17.3.4.2. [Apply Multicast] をクリックしてコネクションを行います。



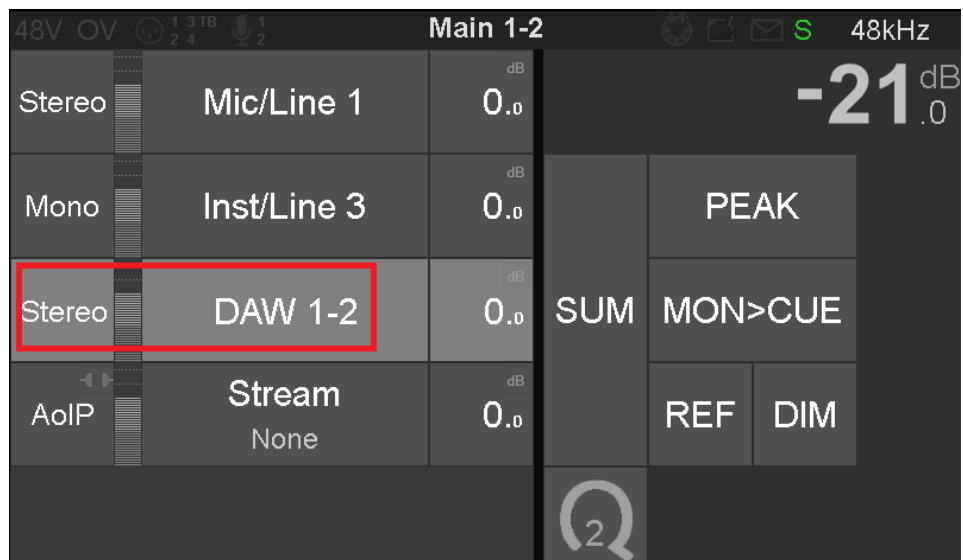


18. 操作

DAWを再生してください。



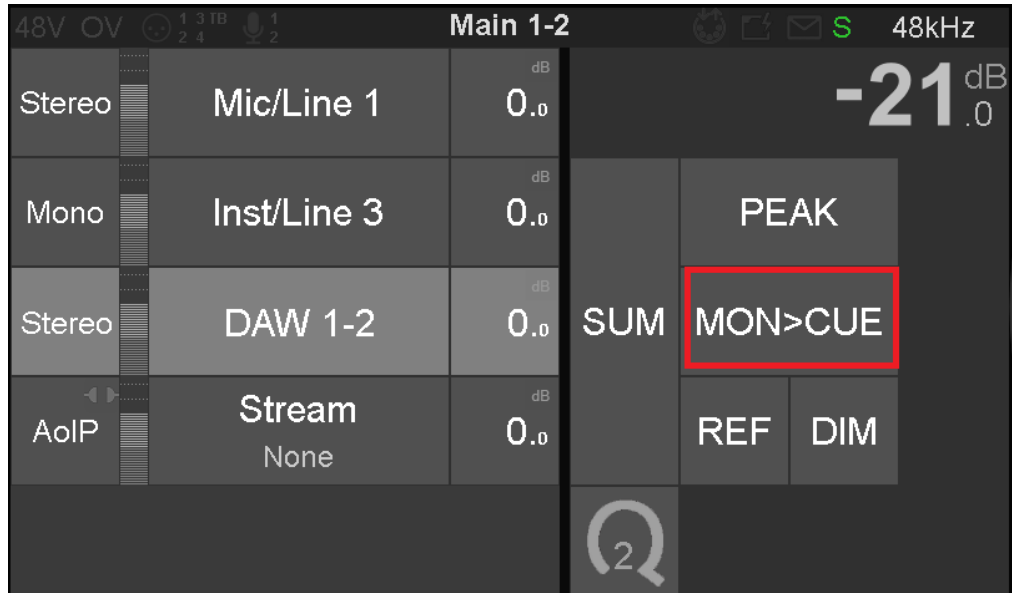
1. ホームボタン②を数回押して”Source セレクタ”表示にし、”DAW”を選択します。



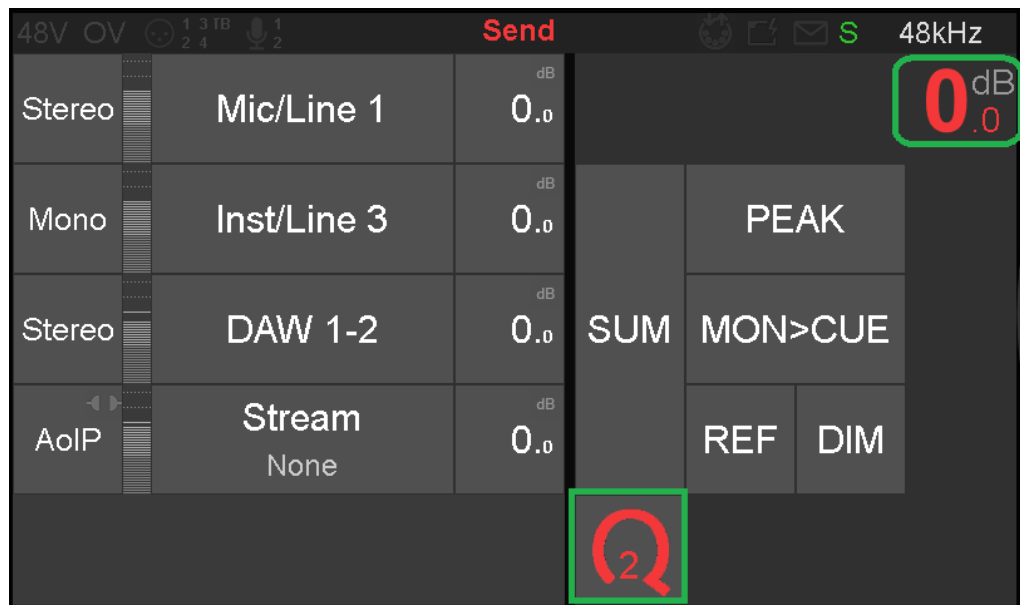
2. ボタン④を押すと、XLRから接続したスピーカーから音が出ます。音量は、ロータリーコントローラー⑨で調整できます。




- ボタン⑤を押すと、TRSジャックから接続したスピーカーから音が出ます。音量は、ロータリーコントローラー⑨で調整できます。
- ボタン⑥を押すと、ヘッドフォン端子Aに接続したヘッドフォンの音量をロータリーコントローラー⑨で調整できます。
- ボタン⑦を押すと、ヘッドフォン端子Bに接続したヘッドフォンの音量をロータリーコントローラー⑨で調整できます。ヘッドフォンBはCue送りなので、通常は何も音がでていません。”MON>CUE”にタッチすると“Source セレクター”画面で選んだ Source が送られます。

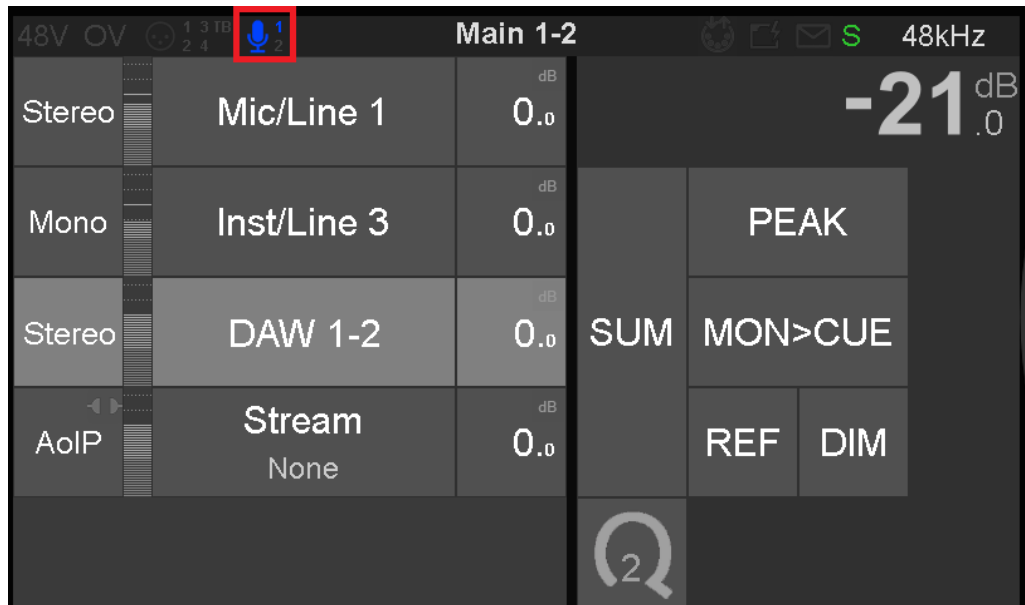


- LCD上の”Q2”にタッチしてロータリーコントロールを回し、”0”にセットしてください。このロータリーコントロールは、Mic Pre とは別の録音用音量フェーダー（録りフェーダー）となります。





7.  Talkback ボタン を押すと、ヘッドフォンBにのみトークバックが送られます。他のSpeakerとヘッドフォンAはDimします。TalkbackがONになっている間、Talkbackボタンと画面左上部のマイクのマークが点滅します。





応用編

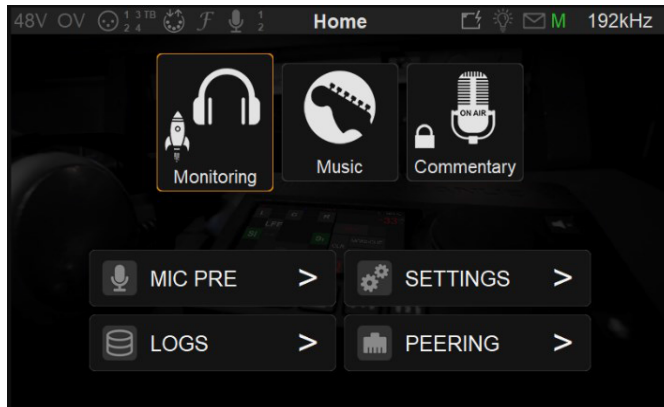
前章ではマイク入力が常にONになっている設定を行いました。

この章では、外部モーメンタリースイッチを使用し、スイッチを押している間だけマイクがONになる設定を行います。この動作はカフの動作を模しています。

AnubisにはTalkbackに**Talk1**と**Talk2**の2系統のTalkbackがあります。

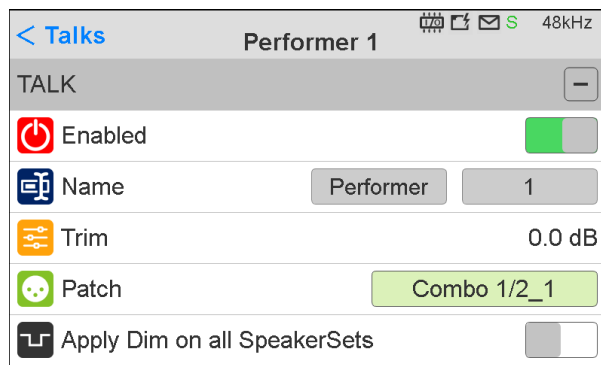
Talk1は本来のTalkbackに使用するよう設定しましたが、**Talk2**は未だ空いています。この**Talk2**にマイクに割当て、**GPII**に接続したスイッチでON/OFFをコントロールします。

1. ホームボタンを1秒間押し、**Settings** にタッチします。



2. **MONITORING > Talks** に入ります。
3. **Talk2**をタッチします。
 - a. **Name** を適当に名前を変更します(この例では“Performer 1”)。
 - b. **Patch** を **Combo 1/2_1** に変更します。

これで **Talk2(Performer 1)** の入力にXLR1が割り当てられました。



4. 左上の“<Talks” にタッチしてひとつ上の階層に戻り、“**Monitors**” に入ります。
5. 前章で作成した“**Send**” にタッチして設定に入ります。
6. 変更する点は、“**TALKBACK**” の中の“**Talk A**” に、上で作成した“**Performer 1**” を割り当てます。これで、Performer 1 が動作すると、この出力にマイクからの信号が割り込んできます。



TALKBACK		[-]
	Sources Dim	0 dB
	Talker Dim	0 dB
	Talk A	Performer 1
	Talk B	None

7. 左上の“<Monitors” にタッチし、さらに左上の“<Settings” にタッチして最上層まで戻ります。
8. 下にスクロールさせ、“I/O > Triggers” にタッチします。
 - a. **GPIO/MIDI connector mode** を **GPIO** に設定します。
 - b. **Talkback button type** は **No Latch** に設定します。

< Settings		Triggers		48kHz	
	GPIO/MIDI connector mode	GPIO			
	Talkback button type	No Latch			
	Talkback button trigs	Talk 1	None		
I/O		[-]			
	GPI	>			
	GPO	>			

9. I/O の GPI にタッチします。
 - a. **TRIGGER SETTINGS** の **Input Signal Type** を **State** に設定します。
 - b. **ACTIONS** で、**Create new action** にタッチし、新しいアクションを作成します。

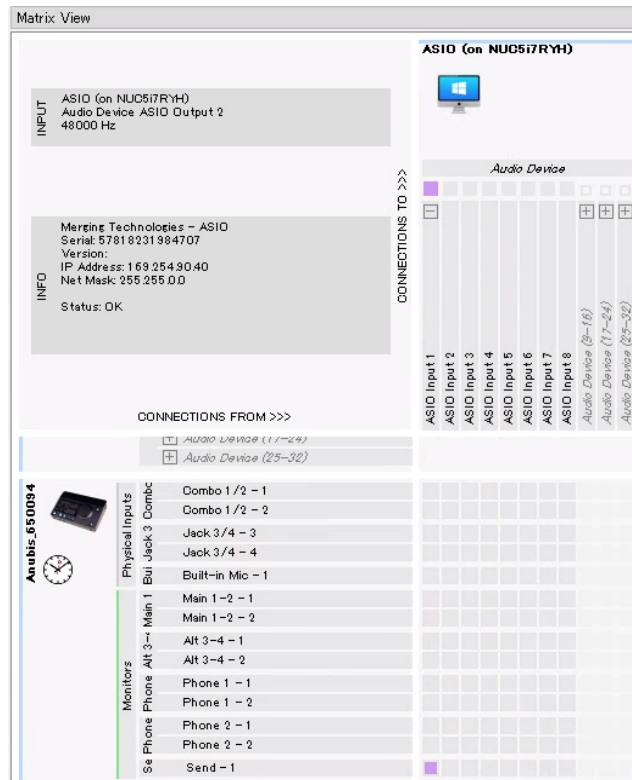
作成したアクションに、次の設定を行います。

- c. **Group** を **Talkback**
- d. **Component** を **Talk2**
- e. **Function** を **Talk**
- f. **Action** を **Toggle**

と設定します。

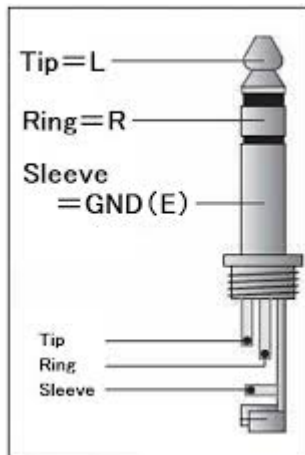
設定が完了したら、ホームボタンを押して、通常のホームページに戻ってください。

10. 最後にANEMANを起動し、Send-1 がASIOに接続されていることを確認します。



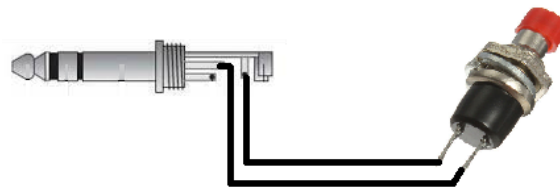
リモート用スイッチ

リモート用のスイッチの配線は、



RingとSleeveの間にスイッチを入れてください。

スイッチは、モーメンタリー(スイッチを押してON, 離すとOFF)を使用してください。



GPI ポートは、Anubisの裏面にあります。





GPO接点の使い方

GPOは、AnubisのTalkスイッチが押されたときにGPOから信号を出して、他の機器の接点に使用する場合などに使用できます(ソフトウェアでの設定が必要)。

AnubisのGPOは下図の様に出力に抵抗がついているため、そのままLEDを接続することができます。

